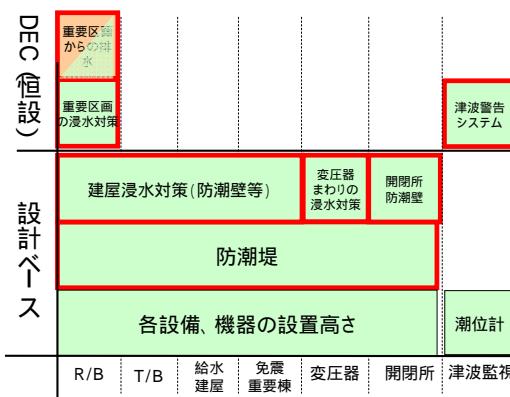


安全確保の考え方に基づく柏崎刈羽原子力発電所7号機の設備対策



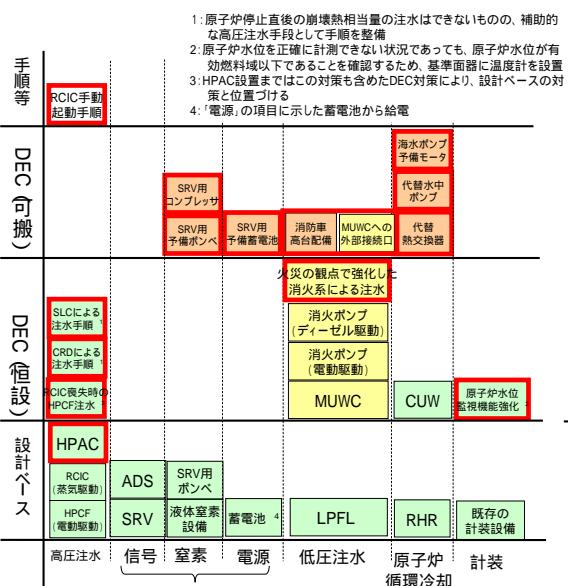
第1層 異常の発生防止(津波の例)

- 設計津波を超える津波に対しても、建屋内への浸水を防ぐよう対策を実施
- 建屋内への浸水に対して、重要機器のおかれた部屋の浸水対策、排水対策を実施
- 事故最初期に必要となることや、対策の性格上、基本的に恒設設備の対策を実施



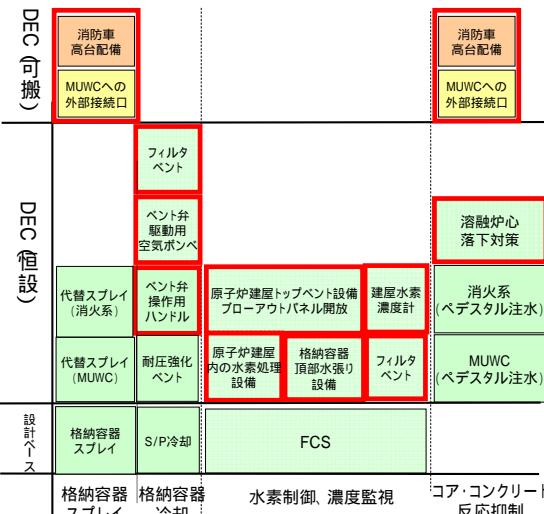
第3層 炉心損傷防止(注水、減圧、循環冷却)

- SBOを設計ベースに位置づけ、設計ベース、DECそれぞれで高圧注水機能を強化
- 減圧機能の強化を検討中
- 低圧注水以降は可搬設備も含めた多様性をもった対策を実施



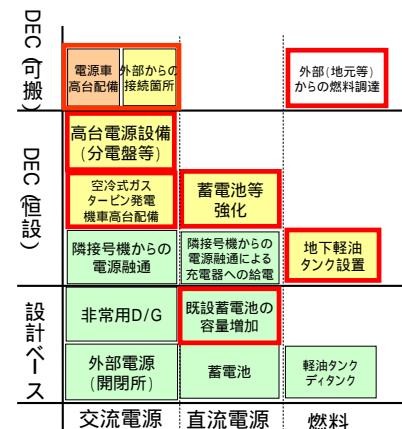
第4層 炉心損傷後の影響緩和、放出抑制

- DECとして恒設設備中心に対策を実施



各層 共通 炉心損傷の防止/損傷後の影響緩和(電源)

- 電源は各層の機能をサポートする設備であり、高い信頼性を確保する必要があることから、DECとして位置的分散を重視した恒設設備中心の対策を実施



各層 炉心損傷防止/損傷後の影響緩和(水源)

- 水源は各層に共通するサポート設備であることから、DECとして位置的分散を重視した恒設設備中心の対策を実施

その他 燃料プールの冷却

- 一般的に時間余裕が大きいことから、可搬設備を用いた対策を実施

その他 常用系設備の耐震機能維持

- 非常時における常用系の有効活用の観点から、追加の耐震強化を実施

その他 その他の観点での安全対策

- 事故時の対応をサポートする上で重要な各機能への対策を実施

